

# 志賀原子力発電所の 環境放射線監視結果及び温排水影響調査結果

石川県、志賀町及び北陸電力株式会社は、発電所周辺の環境放射線監視及び温排水影響調査を実施しています。今回は、平成18年1月～3月までの環境放射線監視結果「平成17年度第4報」及び平成17年度秋季の温排水影響調査結果「平成17年度第3報」の概要をお知らせします。

環境放射線監視結果については、これまでの測定結果と同程度であり、志賀原子力発電所による環境への影響は認められませんでした。

温排水影響調査については、温排水によると考えられる異常な値は観測されず、水質・底質及び海生生物調査では全体として大きな変化は認められませんでした。

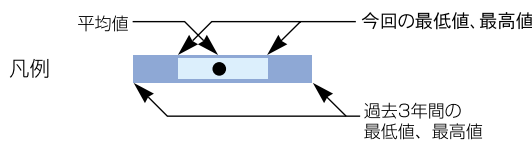
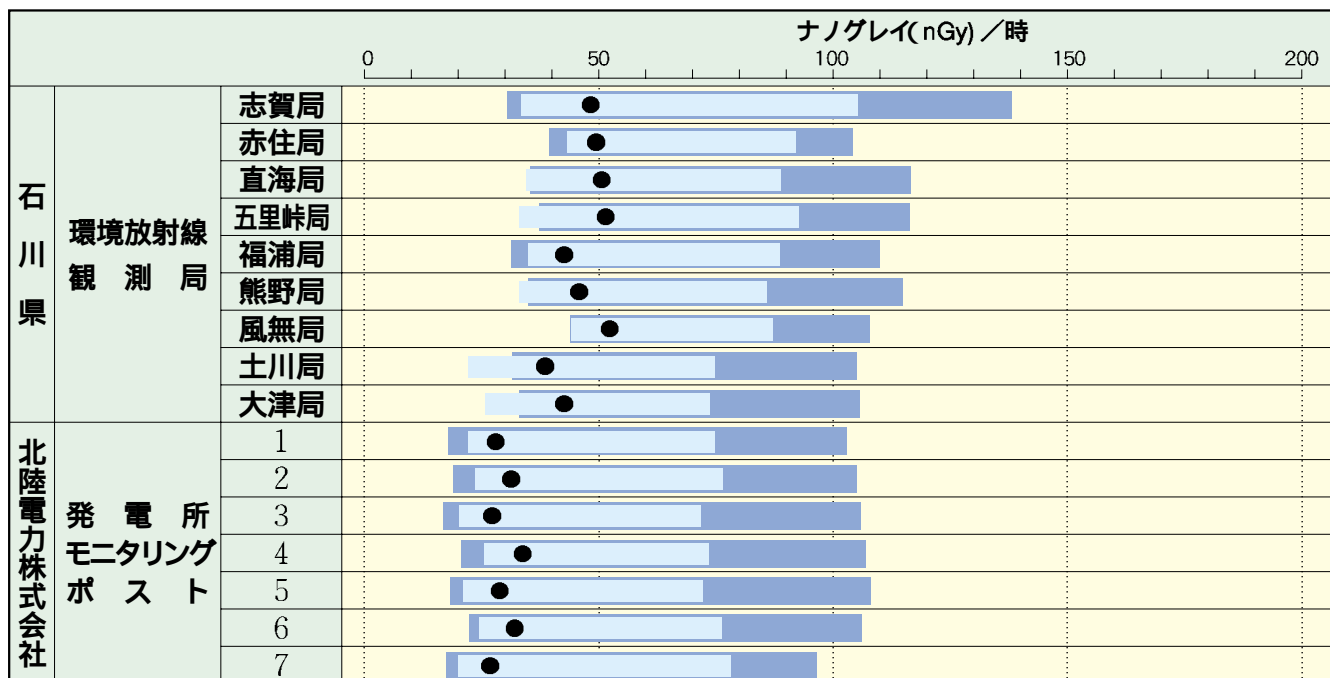
## I 環境放射線監視（平成18年1月～3月）

### 1. 空間放射線

#### ① 線量率\*

環境放射線観測局（9局）及びモニタリングポスト（7局）における線量率の測定結果は次のとおりでした。

各局の線量率の高めのものは、いずれも降雨等の自然条件によるものでした。（\*線量率とは1時間あたりの放射線の強さをいい、短時間での変動の把握を目的としています。）



#### ② 積算線量\*

モニタリングポイント（45カ所）における積算線量の測定結果は、0.10～0.18mGy/91日で、過去の測定値と同程度でした。（\*積算線量とは、3カ月間の空間放射線量をいい、四半期ごとの変動の把握を目的としています。）

#### （参考）

なお、1号機の排気筒モニタデータは5～6 cps（H2.7～H17.12までの測定値：5～7 cps）、1号機の放水ビットモニタデータは11～13cps（H2.7～H17.12までの測定値：11～15cps）であり、2号機の排気筒モニタデータは5～6 cpsでした。

#### ※2号機放水ビットモニタデータについて

平成18年8月9日、北陸電力から2号機の放水ビット（放水槽）の放射線の測定装置に不具合があり、これまでの放水ビットモニタデータが適正でなかったとの連絡がありました。現在は、復旧し適正なデータとなっておりますが、これまで「あともす」に掲載されたデータ及び今後8月までのデータについては欠測扱いといたします。

なお、このことに関する詳細は、石川県原子力安全対策室のホームページに掲載してあります。

## 2. 環境試料中の放射能

環境試料について測定された人工放射性核種は、セシウム-137(Cs-137)、ストロンチウム-90(Sr-90)及びトリチウム(H-3)でしたが、いずれの濃度も過去の測定値と同程度でした。なお、セシウム-137、ストロンチウム-90及びトリチウムは、過去の核実験等によって自然界に広く存在しています。

それぞれの放射性核種の濃度範囲は次のとおりです。

試料採取期間 平成18年1月～3月		セシウム-137濃度						
		単 位	0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	降下物*	ベクレル/平方メートル・月		●				
	浮遊じん*	ミリベクレル/立方メートル	●					
	陸水*	ミリベクレル/リットル				●		
	土壌	ベクレル/キログラム乾土			●	■		
	松葉*	ベクレル/キログラム生			●	■		
	牛乳*	ベクレル/リットル		●				
海洋試料	海水	ミリベクレル/リットル			●	■		
	海底土*	ベクレル/キログラム乾土			●			
	藻類*	ベクレル/キログラム生		●				

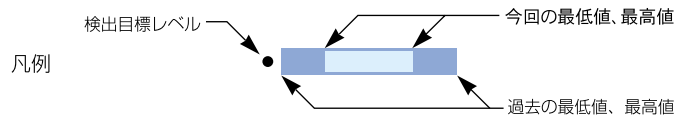
\* ) 今回は検出目標レベル未満

試料採取期間 平成17年10月～11月		ストロンチウム-90濃度						
		単 位	0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	土壌	ベクレル/キログラム乾土			●	■		
	牛乳*	ベクレル/リットル	●	■				
	精米*	ベクレル/キログラム生		●				
	野菜類	ベクレル/キログラム生		●	■			
海洋試料	海底土*	ベクレル/キログラム乾土			●			
	魚類*	ベクレル/キログラム生		●				

\* ) 今回は検出目標レベル未満

試料採取期間 平成17年7月		トリチウム濃度						
		単 位	0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	陸水*	ベクレル/リットル			●	■		
海洋試料	海水*	ベクレル/リットル			●			

\* ) 今回は検出目標レベル未満



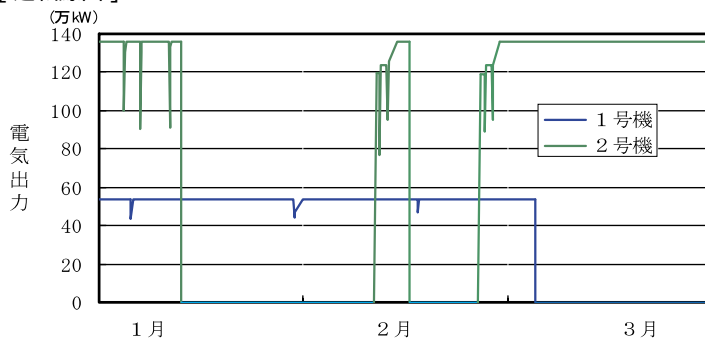
※検出目標レベルとは、検出器の性能、試料の量・形状、測定時間等によって検出できるレベルが異なるため、試料ごとに、検出値が有効となる目安として決めているレベルです。

図中で「●」で示したものが検出目標レベルです。

青や水色の横棒がなく、「●」のみが記載されているものは、これまでセシウム-137、ストロンチウム-90、トリチウムが検出目標レベル未満であったことを表しています。

## 志賀原子力発電所の運転状況（平成18年1月～3月）

[運転線図]

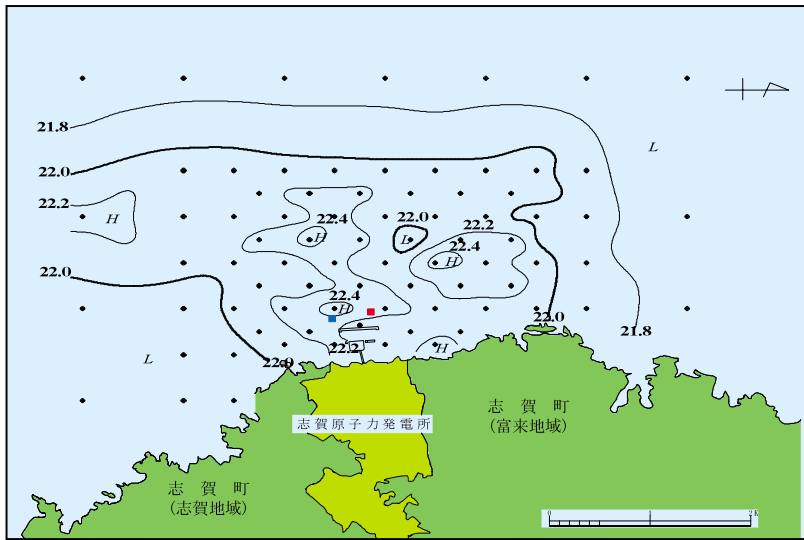


[特記事項]

年月日	内 容
平成18年	
1月1日～3月4日	定格熱出力一定運転中(1号機、制御棒パターン調整を除く)
1月5日～1月6日	} 制御棒パターン調整(1号機)
1月30日～1月31日	
2月16日～2月17日	
1月13日～2月10日	タービン駆動給水ポンプ出口弁のベアリング点検及び原子炉隔離時冷却系の蒸気供給弁点検のため発電停止(2号機)
3月5日～	第10回定期検査(1号機)
3月15日	営業運転開始(2号機)

## II 温排水影響調査（平成17年度秋季）

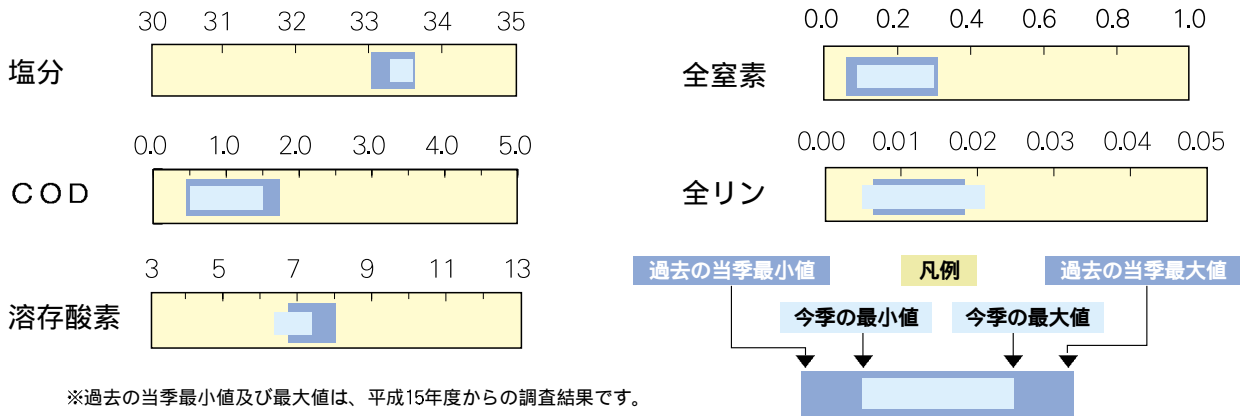
### 1. 水温調査結果(調査日：平成17年10月12日 午前) 水深1 m



〈温排水の状況〉  
 温排水調査期間の10月11日～17日の間は1号機は定格熱出力一定運転中であり、2号機は試運転中でした。

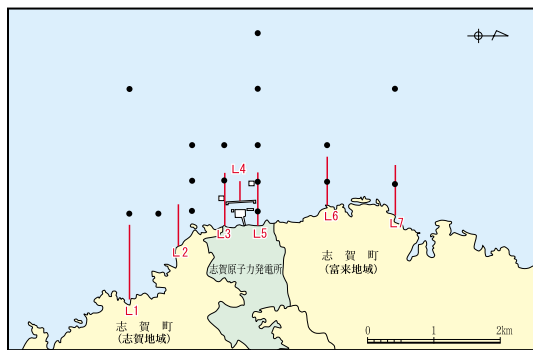
※ ■は1号機の放水口位置、■は2号機の放水口位置を示す。

### 2. 水質調査結果(採水日：平成17年10月12,13日) (単位：mg/l ただし塩分を除く)



※過去の当季最小値及び最大値は、平成15年度からの調査結果です。

### 3. サザエ生息調査結果(調査日：平成17年10月13～15,17日)



●：水質測定点      |：サザエ生息調査測線

調査測線	水深 (m)	調査面積 (㎡)	調査結果 (平均個数)	過去の調査結果 (平均個数)
L 1	3～20	125	3.0	6.2～8.2
L 2	3～20	125	6.0	6.8～7.0
L 3	3～20	125	6.0	7.0～7.2
L 4	15～20	50	0.0	1.0～1.0
L 5	3～20	125	5.2	7.6～11.6
L 6	3～20	125	1.6	5.0～6.8
L 7	3～20	125	12.6	17.8～18.6

**水温調査：**1号機温排水浮上点近傍および2号機温排水浮上点近傍を含む北側の海域では、周辺に比べやや高い分布がみられた。同一水深層での温度差は、0.7～1.4℃、塩分差は、0.2～0.4であった。

**水質・底質調査：**これまでの秋季調査結果と比較すると、水質調査では、溶存酸素量およびクロロフィルaが低く、透明度が高いほかは、いずれの項目もほぼ同程度の結果であった。底質調査では、化学的酸素要求量が低いほかは、いずれの項目もほぼ同程度の結果であった。

**海生生物調査：**これまでの秋季調査結果と比較すると、メガロベントス調査のサザエの平均個体数は、これまでの調査の範囲よりやや少なかった。植物プランクトン及び動物プランクトン調査については、いずれも平均出現数がこれまでの調査の範囲より少なかった。その他の項目についてはほぼ同程度の結果であった。